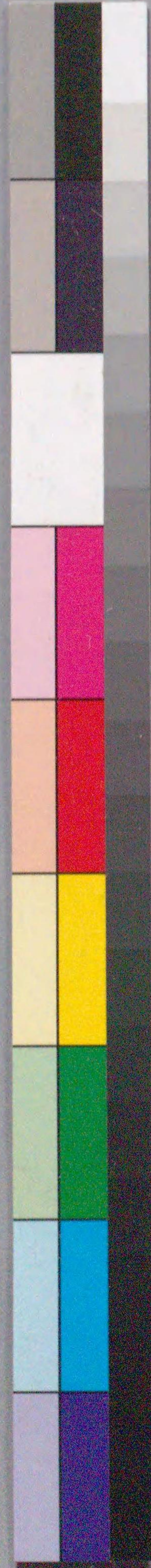


化物見越松

207  
399







化物見越松

十五卷  
九巻  
合二冊

207  
399

寛治九年





天

月

己卯年

見

序

鶴亭金井

見越松ありその長江や臥を  
 天の終を送るまゝ春の  
 低地獄の風を花をたぐふ  
 集ていへん後を松と一。母まき  
 て、税卑の并に子口税ぐとしり先を  
 野家子権町のてくたしで成て小冊し  
 か。ひのくすの書録子ふ  
 春



十通存誌













高橋佛子



あまのこは  
おまのこは  
おまのこは  
おまのこは

おまのこは  
おまのこは  
おまのこは  
おまのこは

おまのこは  
おまのこは  
おまのこは  
おまのこは



おまのこは  
おまのこは  
おまのこは  
おまのこは

おまのこは  
おまのこは  
おまのこは  
おまのこは











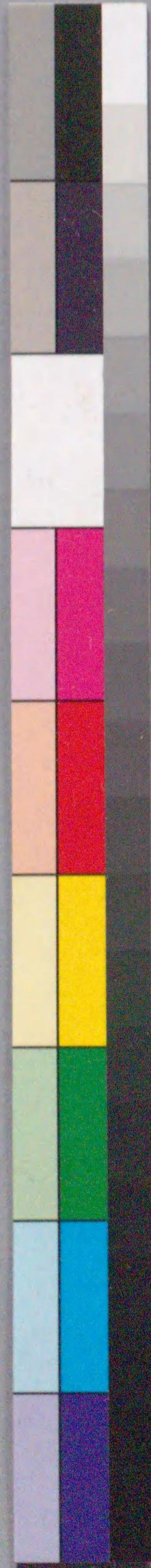




















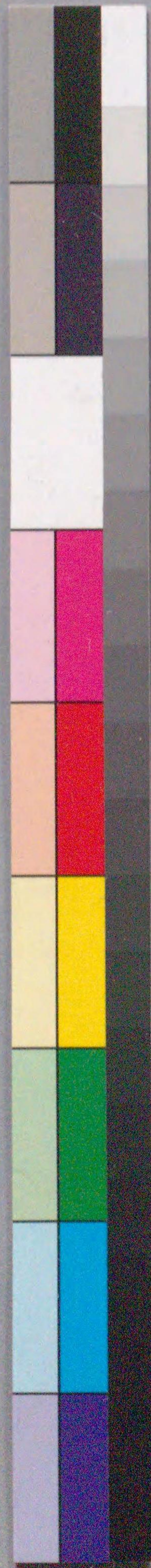


207  
399

嘉永五年  
里直歩四



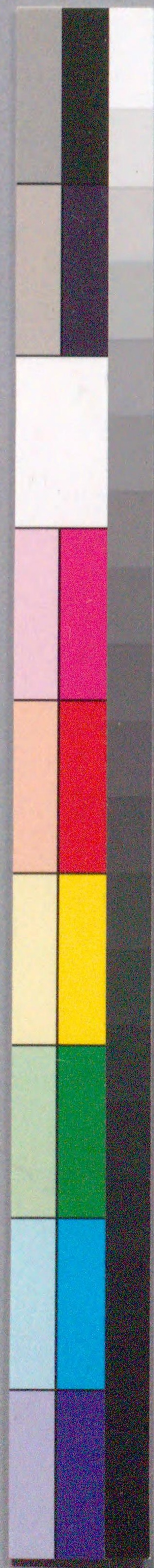




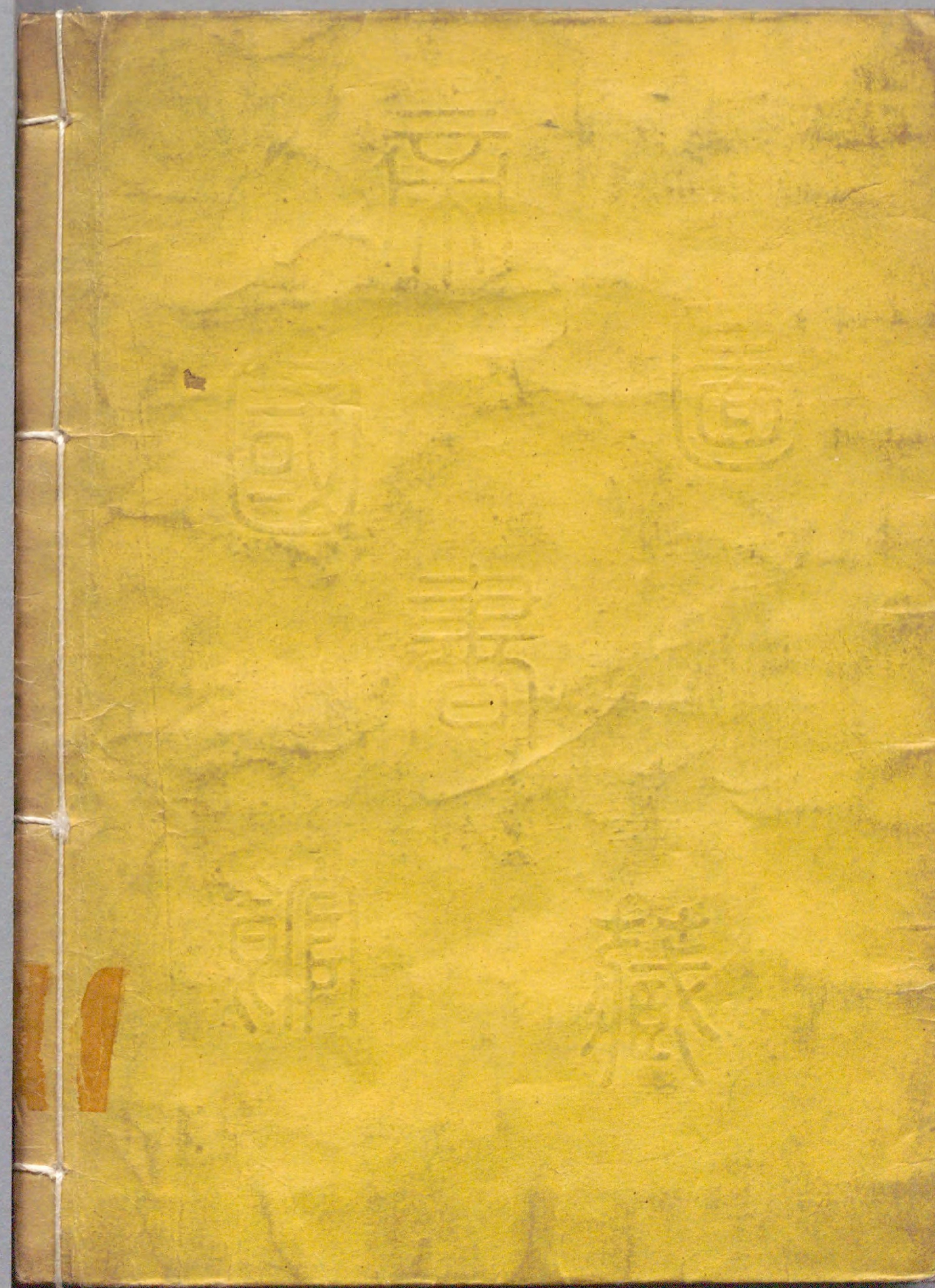
国立国会図書館 化物見越松 : 2巻 207-399

ガラス使用





国立国会図書館 化物見越松 : 2巻 207-399



ガラス使用

